



# 夢の本棚へ

発行所：松居直コレクション  
プロジェクト  
代 表：金戸 美紀予  
事務局：石川県小松市  
小馬出町10-3  
空とこども絵本館  
☎ 0761-23-0033  
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉  
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

## 声の文化と絵本 ⑤

豊かな言葉で目に見えないものが見えてくる

### 生活感・自然感が蘇る



◆小松や石川・金沢へ行くと、緑が美しいので、私はほんとに惹かれてるんです。そして、山が見えて海が見えるんですよ。こんな所、ありません

◆私は京都で育ちましたから、東京へ来た時、山が見えなくてびっくりしました。東西南北、分らないんだから。京都は、山を見れば分かります。東山とか、西山とか、北山とか◆特に私は木が好きで、木が風に吹かれて、その季節によって違うのを感じます。そういうことをちゃんと体験してないと、日本の詩歌ってのは、読んで分らないんですね◆ですから、今の子どもたちは、春夏秋冬の水の温度がどういうふうにとれくらいい違うのか、知ってますかね。私は、京都で鴨川のすぐ傍にいましたから、幼稚園から小学校にかけて毎日毎日、遊んでいました。物語に川が出てくるとストーリーじゃなくて、生活感や自然感が生き生きと蘇ってくるんです◆鴨川にはいろんな魚がいます。「どっちから来て、どこへ上がって行くのかな」と、好奇心が芽生えてくる。それがストーリーに生き生きと出て来ると。

### 豊かな自然に触れてほしい

◆すぐ傍に、植物園もありました。そこへも毎日遊びに行きました。芝生の所と森の中、林になつてるところと、空間が違うように展開します。それを体験してま



### 想いを巡らす読書

◆読書ってのは、文字を読むだけではだめで

す。字を読んで、言葉を読んで、文章を読む。そこまでは、識字力でできます。しかし、それは読書ではありません。その先が読書です。言葉が表現している世界にどれだけ深く入り込んでるか。言葉表現した人の世界がどういう世界か。どういう気持ちでその物語を書いたのか。その人の想いっていいですか、そういうものが感じられなければなりません◆ですから、今ほとんど字を讀んで、全部読んだらお終いみたいな感じになって、読書力が落ちてる。読書力が落ちてることは、生きる力が乏しくなってるんです◆今の子どもたちが大人になった時の日本の社会を考えると、ほんとにちょっと背筋が寒くなる。人間と一緒に生きていく豊かな世界が作れるのだろうか。



### 精神・文化の豊かな時代に

◆20世紀が終わった時に私が感じましたのが、20世紀ってのは「物とお金の時代」だったということでした。21世紀は「精神的に豊かな時代、文化の豊かな時代」を作って行かなくてはいけないと思います。物とお金には命がない。命がほんとに大切にされてない。命ってのは目に見えませんが、言葉っていうものを豊かに持っている、目に見えないものがあるように思っています◆目に見えないものでも、私たちは言葉の豊かさによって感じたり、思い描いたりすることができると。そういうことをもう一度考えて、子どもの本を読むようにしていただきたいと思います。(つづく)